



渋滞対策

阪神高速グループでは、阪神高速道路のネットワークの拡充・強化に加えて、拡幅や車線運用の変更、速度回復誘導灯の設置などのボトルネック対策、う回を促すための情報提供の充実や料金施策、工事による渋滞を削減するための工事の集約・短縮などの渋滞対策に取り組んでいます。

車線運用の変更

南港JCTの4号湾岸線・5号湾岸線合流部において、交通量が増加した5号湾岸線側が2車線のままで合流するように、車線運用を変更しました。その結果、南港JCT付近の渋滞時間が変更前には約2.9時間（2018年12月平日平均）でしたが、変更後（2019年12月平日平均）には約0.1時間と大幅に削減されました。

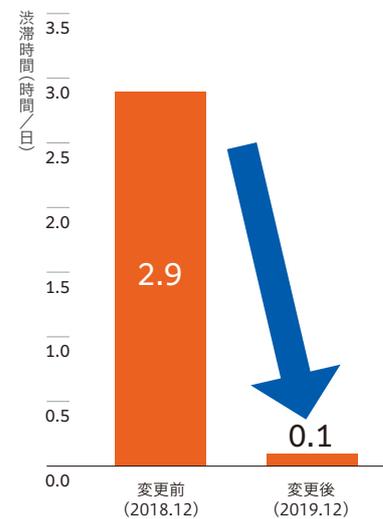
【変更前】

5号湾岸線側から1車線、
4号湾岸線側から2車線が合流



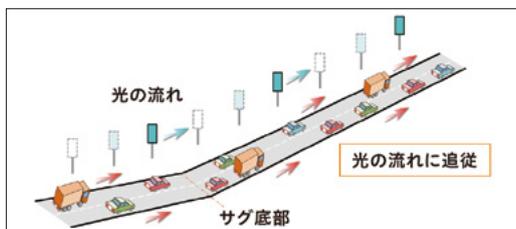
【変更後】

5号湾岸線側から2車線、
4号湾岸線側から1車線が合流



速度回復誘導灯の設置

勾配が下りから上りへと変化するサグ部では無意識に速度が低下してしまい、ボトルネックとなりがちです。そのような場所において速度回復を促すため、等間隔に設置した点滅灯を一定速度で連続的に点灯させる「速度回復誘導灯」を設置しています。現在全線で5か所に設置していますが、さらなる効果向上にむけて引き続き検討を進めています。



速度回復誘導灯の効果(イメージ)



速度回復誘導灯(3号神戸線(東行)深江付近)